# さんけん新聞

発　行
ＮＰＯ法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046

## 人が関わる環境保全学ぶ
### 釣りファンや漁協関係者集まり盛況

## イワナの保護テーマに講演会＆上映会
### 三段峡名勝指定100周年記念事業　第4弾

渓流魚・イワナの生態や保全をテーマにした講演会と上映会が２月22日、広島市中区のパタゴニア広島の店内で開かれた。釣りファンや漁協関係者が集まり、ともに定員を上回る盛況ぶりだった。「環境保全について考える冬の暮」と銘打った三段峡名勝指定100周年記念事業の第４弾。

ゴギの研究成果や河川環境について説明する河合幸一郎さん（右）

「ゴギに魅せられて」と題した講演では、中国地方の河川を中心にイワナの亜種であるゴギを長年、調査研究をした河合幸一郎広島大学名誉教授が、遺伝子による分類やゴギとニッコウイワナの生体的な違い、河川争奪、斑紋の違いを解説し、河川改修や広葉樹林伐採による悪影響を説明した。

落ち葉が溜まって栄養分がストックされ、カゲロウなどが育つ淵の環境変化を指摘。聴講した釣りファンは「皆伐された山の近くでは全く釣れなかった」と話し、広葉樹林と川の環境との関連を実感していた。

坂本麻人監督のドキュメンタリー映画「ミルクの中のイワナ」は、交雑や放流しても増えない現状、漁協の体力低下などイワナを巡る現実を浮き彫りにし、釣り人や人間が関わる環境保全の意義が強調された。

講演は三十二人が聴講、映画は四十五人が鑑賞した。さんけんの主催イベントで、認定ＮＰＯ法人・瀬戸内オリーブ基金の助成事業。井上嵩裕隊員が企画、運営を担当した。

## 都会っ子 神楽を体験
### 自然あそび縁　安芸太田町外で初開催

自然遊び縁・冬編が「節分に鬼退治の道具を作ろう」と題して二月二日、広島市西区の無印良品アルパーク店で開かれた。安野神楽団の協力で弓矢づくりと衣装を着る体験をした。安芸太田町外での開催は初。

当初、雪遊びを計画していたが、共催の同社担当者から「都会の人には冬の装備がハードルになっている」と指摘があり、出張開催になった。予約者以外も受入れて賑わった。

## 台湾人対象にモニターツアー実施
## DROPS　今春から販売予定

氷瀑となった龍頭峡の二段滝（二月九日撮影）

ＤＲＯＰＳが今春から販売を予定している、台湾人対象の渓流釣りと三段峡の雪景色を楽しむ二つのモニターツアーが二月二十一日、台湾の女性インフルエンサーＲｕｒｕさんとツアーガイドの木村紘大さんが参加して、井上嵩裕隊員の案内で実施された。二人は台湾と日本の山をメインにツアーを販売している。

今回の二つのツアーは外国人向けに販売し、三段峡の新しい客層の獲得を狙っている。深入山山麓でのスノーハイクも体験したＲｕｒｕさんは「広島がこんなに雪深いとは知らなかった」と話していた。

## ＬＯＵＰＥの成果発表
### 休眠預金事業報告会

休眠預金活用事業の交付を受けた事業期間の三年が終了し、中国地方の七団体が二月二十八日、松江市に集まって活動報告会が開かれた。

さんけんは一〇五〇万円の交付金でビジターセンターＬＯＵＰＥを開設した。本宮炎理事長は計画段階からオープンまでの経過や活動の広がり、今後の目標について発表した。事務局からは「実行力や事務能力があり、伸びると思っていた」と評価された。

## 一口メモ

### ▼氷瀑

強烈寒波が居座った二月、龍頭峡の二段滝が氷瀑になった。落差四十㍍は圧巻、滝壺近くの氷塊は青白く見えて神秘的だった。温暖化により見られる機会は貴重になりつつある。三段峡内の多くの滝も氷瀑になっているはずだが、冬季は危険で立ち入れず残念だ。龍頭峡は一九七三年、広島県自然環境保全地域にされた。三段峡とともに大切な自然資源である。

## セピア寫眞帖（28）

## ダム反対の思いを込めた石樋の写真

前回と同じ「三段峡フォトアルバム」に掲載されている「石樋」である。名は岩盤が樋のように削れている地形に由来している。右上部には探勝路と木造の休憩所が見える＝拡大写真＝。現在はコンクリート製になっている。

右手は広い岩盤だが低木類は現在と比べて少なく、すっきりしている。アルバムは一九五七年、樽床ダムが竣工する四年前に作製された。当時は大雨による定期的な増水が岩盤を洗っていたのかも知れない。

アルバムは写真が印刷された本ではなく、印画紙を台紙に貼り、印刷した解説文を糊付けした手づくり感の強い代物だ。

古書店で買い求めたのだが、小冊子が二つ挟まっていた。一つは日本自然保護協会の田村剛理事長以下、理事や評議員が署名した「三段峡の電源開発に関する反対陳情書」、もう一つは地元の各村長や議員、教育長らの連名による同様の陳情書だった。

フォトアルバムは、ダム建設反対のために必死の思いで作製されたと推察できるのである。（松尾俊孝）

## 「高梁野鳥の会」と交流
### ヤマセミ保全で情報提供

岡山県高梁市の高梁野鳥の会が二月十五日、二十七人が参加して、シンポジウム「市の鳥ヤマセミを学ぶ一日」を開いた。さんけんで保全活動を指導している上野吉雄さんと佐藤亜紗ヤマセミ部長が招かれた。上野さんは広島県西部での繁殖状況などを説明し、佐藤さんは人工巣穴設置と紙芝居「ヤマセミの巣穴」を発表した。参加者からは「巣穴を設置したい」「紙芝居を読み聞かせたい」などの声が聞かれた。

市の鳥に制定されているヤマセミが見られなくなり、同会の黒田聖子会長が日本野鳥の会広島支部へ実情を問い合わせたのが交流のきっかけ。上野さんらの案内で一月七日、県北を回ってＬＯＵＰＥを訪れ、巣箱を見学した。